

「近現代日本 150 年の労働者・民衆の闘いの歴史」  
第三章前半の振り返りメモ (2019.1-2019.11)

- ・各回レポートのポイント  
☆みんなの意見  
\*参考(末尾に参考 1~5)

○2019-1-27 プチ労 98 回 : 第三章前半概説 (by GO)

- ・「不気味なほど現代と似ている 1930 年代」(ナオミ・クライン)  
世界大恐慌を経て排外主義とファシズムが勃興、時代の閉塞感。一方で、失業と労働者の激しい階級闘争で、ドイツでは「あと一步」、アメリカでは「体制が危機の淵」(ハワード・ジン)。「満州」を崩壊させた中国・朝鮮民衆の抵抗。
- ・「20 世紀の問題は Collar-Line (皮膚の色の境界線) の問題」(W.E.B.デュボイス)
- ・「焦土と棄民」という「満州」とフクシマの類似性。

○2019-2-24 プチ労 99 回 : ドイツ労働者階級とナチスの闘い①

—小劇場「あと一步だったかも？」~ナチスの台頭をギリギリまで食い止めた労働者階級 (by Shoko 代役 GO)

- ・プロローグ「潰えた 1923 年の革命」
- ・第一幕「大統領による憲法の破壊」
- ・第二幕前半「労働者とナチスの激闘」  
劇中劇①「激論つづく労働者街」、②「ナチスに入った青年」
- ・第二幕後半「ナチス後退！」
- ・第三幕「資本の代理人になったナチス」
- ・エピローグ「虐殺と戦争へ」。

☆こんなに労働者が頑張っていたんだ。

☆ナチスが支持を集めたプロパガンダ「平時の幸せ」はアベの「自己責任」と同じで自分のことばかり。

☆ナチスの台頭の背景に「キャラメル一箱で売春する女性」という貧困があった。

## ○2019-3-31 プチ労 100 回：ドイツ労働者階級とナチスの闘い②

### —「あと一歩」はナチスを支持した人々の労働の尊厳をどう見据えるか？

(by Naoko)

・「この時期、政党に頼らず『自分たちの労働の尊厳を取り戻すために闘うのは自分たちしかいない』と 1926 年大ゼネストに立ち上がったイギリス労働者階級は、以後『People』と呼ばれ、イギリスでのファシズム台頭を抑えた勢力ともなった」(セリーナ・トッド)。

・我々は、ナチスを作った「自分のことしか考えない大衆」(ハンナ・アーレント)なのか、イギリス労働者のような「People」なのか

・沖縄県民は 2 月県民投票で基地を拒否した。

「この町で娘を育てていくから歴史を自分たちのことを考える」23 歳パパ

・労働の尊厳って何か

「仕事なので上からの指示に従うだけ」のアイヒマン、五輪組織委総務課長に対して「放射能のホント」パンフの生徒への配布を拒否した広島教師倉澤さんたち

・「あと一歩」は何か

原点「倒すべきは資本」に戻る

☆労働者の期待に反し、ドイツ社民党や共産党は、選挙を意識して「混乱を招く」ゼネストを指示しない。政党を自分たちに取り戻す必要がある。今、再開発反対運動でも政党は「議会主義」。

### —補足：現代日本の意識調査「過去最大の個人志向と満足度」の意味 (by GO)

・あらためて我々は「大衆」か「People」か

・低投票率は各年代とも同じ

・「個人志向」と「現在の生活への満足度」が 2018 年に過去最大

・一方「現在の生活の不安度」も高く「社会への不満」はさらに高い

・「愛国心」はまだ微増。「国ために戦う」は他国比圧倒的に低い

☆「個人」と「満足」は衝撃だが何か納得。反原発デモも個人参加多い。

☆「社会志向」が低いと言っても、ボランティアする人は多い。

\*参考 1:「無関心の海」に広がる「ヤンキー文化」？

☆「個人志向 (≡自分のことばかり)」最大というが、昔も今も「自分が承認されたい」という欲求はあるのでは。今は SNS に「承認」を求める。

\*参考 2:「透明化された人々」への「無関心」は日本を壊す？

☆沖縄県民投票では 21 歳大工が「見て考えて議論」している。オリンピック返上署名も「無関心とあきらめの海」のなかで想定以上だった。

☆辺野古にも行った自然農のミナちゃんもいる。

☆年越し派遣村、反原発、そしてコンビニ労働者がたちあがっている。「個人志向（≒自分の承認）」の質が「自分“たち”の尊厳の承認」へ変化するまでもう少しなのか、「愛国心」にすりかえられるか、せめぎあいかな？

### ○2019-4-28 プチ労 101 回：ドイツ労働者階級とナチスの闘い③ (by GO)

—補足：ナチス台頭の主力は農民！—しかし「あと一步！」労働の尊厳か民族か

・その労働の尊厳が込められた土地を求めた農民。私有財産だからと土地革命をしなかった社民党。「民族の血統が維持される場所が土地」だと「民族の尊厳」にすりかえたナチス。

☆今、日本で農業を真剣にやる人にとって土地は、私有財産ではなく、自然との共同作業のための「総有物」

☆「民族へのすりかえ」は、「自己責任」の浸透か

☆今、差別の構造がつくられている。ゆとり世代教育では「起業」が強調される。

「頑張れば報われる」が、多くのそれができない人に残るのは国籍だけ。

\*参考 2：「頑張れば報われる社会」観念の極端な例が「在特会」？

☆非正規化とともに若者に教育されるのは「みせかけの希望」

☆典型は SFC（慶応大学湘南藤沢キャンパス）

☆ICU（国際キリスト教大学）で辺野古の説明をしたら、「へのこ」と読めない人、「県民投票なんてあったっけ？」という人がいた。

☆でもお金をもっていることで自由

☆しかし結局むなしい

☆アベがいう「日本人の国」の移民はすでに 400 万人

☆いろんな人が話しあえる“場”がもっと必要

☆ただ、すでに問題意識ある人以外の人とつながるのは難しい

☆歴史を学ぶのは、つながるために今大事なことを確認する作業

## ○2019-5-26 プチ労 102 回：ナチスの“兄弟”「ニューディール」とアメリカ労働者の闘い① (by Yui)

- ・ナチスと同時期に登場した「ニューディール」政策は、「社会主義的」と言われながら資本主義の延命を図る点で、ナチスの政策と“兄弟”。
- ・また、アメリカ建国以来の白人優位思想にもとづく人種差別と人種の分断統治（人種資本主義）は、ナチスの反ユダヤ法のモデルとなった。

☆白人に都合がいいだけで「法律」そのものに意味がない。アメリカは出だしからひどい。ロクなこととしてこなかった。インディアンに国を返して、黒人にはちゃんと謝った上で相当の保障をすべき。

☆侵略に始まるアメリカは大嫌い。存在自体が罪。滅びるべき。

☆日本の敗戦直後の優性保護法も「自由と民主主義」のアメリカから。

☆アメリカの「天皇制・国体」が「白人のための自由と民主主義」

☆日本ではどうか。朝鮮侵略と差別の「錦の御旗」天皇制が必要という人が多い。

\*参考1：天皇を愛する人はかくもヤンキーが好き

☆ところで「慰安婦」「徴用工」問題は和解をさぐるべきでは？いつまでも続く。

☆そもそも日本は一度も今まで謝ったことがない。

☆向こうが「もういい」というまで謝り続けるべき。

☆そうはいつでも朝鮮人とは違う日本人のアイデンティティがあるのでは？それぞれのアイデンティティを踏まえた相互理解？

☆治安維持法で虐殺されたユン・ドンジュの親友は特高取調官に「あなたがたには劣等感がある」と言った。侵略者日本にあるのは「自分は何者か、自分のアイデンティティを見失ったナショナリズム」？

☆「日本人」であるが、自分のアイデンティティって何かずいぶん考えている。

\*参考3：「無関心」の源流？戦争に突き進んだ「日本人のアイデンティティ」

☆しかし、人間は差別をなくすと実力本位の社会になる。狩猟するだけから獲物を貯蔵するようになり、どう分けるかで序列付け、差別が始まった。

☆遠い昔はわからない。資本主義500年を考えた方がいい？

\*参考4：欧米で強まる「自分たちで決めたい」という大衆の声

☆「米作り」を手伝っていると、土に根差して地域で協働していく社会があると思う。

☆「いろいろトーク」の場があれば実力本位だけにならないかも。元 NHK デイ

レクターの「電車の優先席でスマホをずっといじる青年は知的障害者？」という話も徹底的に検討・議論して良かった。 \*参考2: やまゆり事件犯人を支持する人々

## ○2019-6-30 プチ労 103 回 : ナチスの“兄弟”「ニューディール」とアメリカ労働者の闘い② (by Yui)

・世界恐慌を経た 1930 年代のアメリカでは、労働者が「白人も黒人もともに闘う唯一の場」となった「Rank & File」の 4 大スト、「Sit-Down (工場座り込み)」スト大闘争があった。それは、アメリカ資本主義を「体制の危機の淵」に追い詰め、「社会主義的」とも言われる「ニューディール」政策を引き出した。

☆アメリカでもこんなに労働者の闘争があったなんて。

☆特に GM フリント工場占拠では、いろんな当番とルール（最大の違反の罰は「工場外追放」）をつくり、労働者が自分たちの労働の尊厳を取り戻すために自分たちでやっていて、涙がでた。

### —補足「1930 年代アメリカ労働者・民衆の大闘争の意義」 (by GO)

・この大闘争は「人種資本主義」のおかげで「社会主義革命」にできなかった。

しかし、自分達で考え行動する「新たな黒人」(リチャード・ライト、ジェームズ・ボールドウイン) を生み出し、第二次大戦後の黒人解放運動につながる「人種資本主義」変質の契機となった。

☆今、トランプは資本家なのに白人労働者はなぜ支持するのか？

☆オバマと違って「エリート」じゃないかららしい。

☆トランプは、保健所でかわいい小さな白い犬に比べ無視され引き取られない「大きな黒い犬」のような白人労働者をまとめて引き取った。

\*参考2: 橋下徹がトランプになれない理由

☆大統領選挙が、「エリート」のヒラリーでなくサンダース対トランプだったらわからなかった。

☆しかし、今、ギリギリ「中流」で「国の支援はいらない」という白人労働者が、1930 年代のように闘うのだろうか。

☆1930 年代の大闘争も KKK か労働運動かせめぎあった末だったように、今、トランプ的かサンダース的かのせめぎあいか。

\*参考4: 欧米の新たな社会運動が生んだサンダース、コービン

☆今、トランプは、黒人というより、移民排斥だ。

☆黒人が「公民権」を一応勝ち取り「白人労働者の憂鬱」が始まった 1970 年代から、アメリカへの移民は再び急増した。敵は「仕事を奪う」移民？

☆トランプが強力に支援するイスラエルは、LGBT を強く称揚しているが、その裏には、イスラム社会との差異を際立たせる政治的意図もあるようだ。

## ○2019-7-28 プチ労 104 回：朝鮮侵略が生んだ“矛盾の実験場”「満州」侵略① —概説 (by GO)

- ・「満州」ってどこ？
- ・根底には、朝鮮侵略で抱え込んだ日本資本主義の矛盾—米と糸と朝鮮人
- ・「満州侵略の尖兵」朝鮮人はユダヤ人を除いて世界最大の「流浪の民」へ
- ・「満州事変」から「満州国」建国を支えた「満州」ブーム。
- ・「満州国」は、労働の尊厳を踏み潰された民衆のパワーで崩壊した

☆「満州」は「人のいない荒野」のイメージだったが、こんなに人がいたんだ。

☆当時の日本国内の「満州」ブームは、50 年に渡るブラジル移民にあった「一攫千金」という意識に似ている。また、今の「半グレ（暴力団とは異なり暴対法に引っかからないアメーバのような「オレオレ詐欺」をはじめとする犯罪集団）」に多くの大学生がなるという 状況とも似ている。

\*参考 1:「ヤンキー」の一部は「半グレ」？

☆他人の土地「満州」に多くの人が平気で行ったのは、敗戦後日本で、「地域を豊かにし、日本を豊かにする夢のエネルギー」として、原発が「いけいけどんどん」進められたのと似ている。

\*参考 3:「ヤンキー」、「いきおい」、「ヤケ」、「自信喪失」、「自分嫌い」

☆「満州」をほんと知らない。教科書で触れないのは「日本の一種のひけめ」か。

☆「つくる会教科書」は、「日本人への不法行為被害」が要因とされている。

## ○2019-8-25 プチ労 105 回：朝鮮侵略が生んだ“矛盾の実験場”「満州」侵略② —「五族協和」と「王道楽土」の矛盾 (by Michiko)

・「満州」って何か？ 勝手にひとの国(中国)で 都合のいい「五族（漢・満・蒙古・日本・朝鮮）協和」と「王道楽土」を理念にしたにすぎない。

なんで「勝手に人の国へ」か！ 「朝鮮人や中国人には自治ができなくてダメ

だから」という勝手な意識。そして、敗戦時に、踏み荒らされた中国民衆が日本人「残留孤児」を育てたにも関わらず、「性奴隷！」以外の何物でもない「従軍慰安婦」が「満州」から始められた。

・「満州ブーム」で、ある者たちは「時代の閉塞感」から逃れるために、窮乏した農民たちが新しき土地を求め、また、「一旗揚げよう」という、今の「半グレ」のような若者たちがいた。

一方、たて続けに起こった濱口首相暗殺、血盟団事件、5.15 事件などのテロ事件は、「政治や財界の腐敗を憂う心情」が当時の世間の同情を大変集めたが、共通しているのは、「天皇が何とかしてくれる」ということ。

☆テロ事件が相次いだのは、当時の高い投票率の選挙でも世の中が変わらないというのがあったと思う。低投票率の今は、ある意味、それをわかっている。

\*参考2：巨大な「無党派層」は何か

☆彼らには「資本主義社会はもうだめ」と「天皇制打倒」を掲げるマルクス主義者と同じことを考え、シンパシーもあった。

☆一方、今の「半グレ」は、自ら「金持ちから金をとるから義賊」だと言う。

\*参考2：『自由』が縛る世界の「透明化された人々」と「半グレ義賊」

☆「天皇が何とかしてくれる」が共通していたのは、自転車のチェーンの「遊び」のように、今も、天皇には、社会の「遊び」の機能があるのではないか。それがないと、社会がギスギス、殺伐とする。

\*参考3：「異質のものを共存させる力」である「和の力」は「間＝遊び」を生んだ？

☆ある意味「殺伐」としなければ、革命もないんじゃないか。

☆しかし、「天皇が何とかしてくれる」は、自分達で考えなくなる？ 自己決定権を奪う。今の日本は、日々「何をしちゃだめ」と狭められてきている。

\*参考3：日本人が戦争と敗戦で失った「自己決定権」

☆「誰かに決めてもらおう」は、戦争、オリンピックがそう。「れいわ新選組」も少し危険？ \*参考4：日本の社会運動の成功例「年越し派遣村」の本当の主役

☆「日清・日露戦争はアジアのためによかった」「併合は朝鮮を豊かにした」「特攻の美化」など、日本人は、「起きてしまったことに相手の立場に立って自己批判的にアプローチすることが苦手」というのがある。

\*参考3：なりゆきに任せる暑苦しくない「和の力」？

☆祖父、父親は戦争の話をしな。問い詰めると怒る。

\*参考5：死者にとっての戦争と敗戦後の日本人の「無関心」

☆敗戦時に天皇が退位したり、彼の戦争責任が裁かれていれば、みんな、戦争のことを話したのかもしれない。

○2019-10-24-プチ労 106 回：番外編「慰安婦」・「徴用工」問題の歴史と現在

○2019-11-24-プチ労 107 回：朝鮮侵略が生んだ“矛盾の実験場”「満州」侵略②  
—「総力戦」の準備—「満州産業開発計画」の失敗、棄てられる開拓移民  
(by Yutaka)

・“持つ者が持たない者に持たせることをしない”という現代でも同じ発想の アベの祖父岸をはじめとした日本の支配層は、『満州国』という壮大な“ハリ ボテ”を使った“ママゴト（「満州産業開発計画」 - 総力戦準備）”のために、中国・朝鮮の民衆を踏みにじり、日本人開拓移民を棄てた。

☆それなのに、学校で習う『満州国』の設立から滅亡は1行で済ませられて、僕らはもっとこの歴史を伝えていかなければならない。

☆開拓移民を送らなかった長野の佐々木村長のような人がいたことを絶対忘れてはいけない。

☆最近の自分のテーマは「自分がなんでできているか」。「満州国」よりはよく知っていると思う韓国に「旅行したくない国」という意味で“嫌韓”だった理由が、最近、1987年まで軍事政権だったからかなと思う。それは、プチ労とかのやりとりで最近知ったからか。

☆韓国への印象は、11月の労働者集会に行って、韓国労組の人たちが大挙して来ているのを見て変わった

参考3：なぜ朝鮮人を日本人にしなければならなかったか

☆「中国・朝鮮民衆を下に見ることができる」開拓移民に被差別部落毎送ったのも、一層、差別構造をつくることになった。

☆残留婦人裁判、原爆裁判、慰安婦・徴用工裁判を見ても、敗戦後の過程は、「戦争をなかったことにするのか、しないのか」のせめぎあい。

☆一方、たしかに、ドイツは、「反省。反省」とやってきたんだが、ある意味、「堂々」と再軍備して「大国」になった。ネオナチも復活している。

☆ドイツも日本も反戦があらためて問われるのは、資本主義そのものに対する尊厳をかけた労働者・民衆の運動ってということか。

(今後、「満州」最後の項で中国・朝鮮民衆の抵抗運動、第三章後半で1930年代日本国内の労働運動・農民運動をやります。)

以上



## <参考>

( ) 内は参考・引用文献

### 参考1:「無関心の海」に広がる「ヤンキー文化」?

現代日本は、「バッドセンスな装いと美学で家族と仲間を大切にし、気合(≒大和魂)とアゲアゲ(熱さ・ホンネ・本気・覚悟)のノリさえあれば何とかなるさ」というヤンキー文化(≠不良文化)が広く拡散。

反知性(≠頭が悪い)主義的な行動主義。日本人全員「気合い主義(≒がんばれ)」にどっぷり浸りこんでいる。

橋下徹、木村拓哉、島田伸介、義家(ヤンキー先生)、YOSHIKI、EXILE、ジャニーズ事務所。。

「橋下徹人気」を支えるのは日本人の大半を占める「ヤンキー好き」的な感性。「チヨイ悪」「家族主義(マザコン)」⇒自己責任的教育観。彼独自の理念・理想は語りえないが「何かやらかしてくれそうな期待感」

#### アベ・ヤンキー政権と「社会の安定」

この拡散はアベ以降顕著。ただし、アベはヒトラーにはなれない(東条英機も?)。美学はあっても理想はない。気合はあってもビジョンはない。アベにはファシズムは到底無理。

大衆の多くがこの価値観を受け入れる限り、社会は著しく安定した状態を維持する。日本の保守政党が極右化することはめったになく、ヤンキー右翼はせいぜい「維新の会」どまり。

#### ヤンキーの「保守」性

青少年の反社会性はヤンキー文化に回収され特攻服やソーラン節のような様式性を経て、「愛する家族と一戸建ての家とポルシェ」的現実的「夢」とともに絆と仲間と「伝統」(≒地元)を大切にする保守として成熟。「道徳性」もあるため治安・秩序維持の意義も大きい。他国の「下層文化(イギリスのCHAVE、アメリカ白人のヒルビリー?)」と最大の違い。

#### ヤンキーはボランティアに積極的

しかし、視点を変えれば、「生存戦略」としてこれほど強力な文化もない。正統な価値観や根拠なしにテンションをアゲてことにあたる。たとえ日本中が廃墟になっても真っ先に立ち上がって瓦礫を片付け始めるのは彼らだ。

#### 天皇を愛する人はかくもヤンキーが好き

「天皇」も「YOSHIKI」も「いまここ」で「起源」に触れているという根拠のない錯覚によって、我々の共同体感情、ナショナリズム(≒ナルシズム)を支えてく

れる。伊勢神宮の 20 年ごとの遷宮などフエイクの様式(儀式)が、存在しない本質としての起源へと我々を誘惑し、「気合い」を与える。

(「世界が土曜の夜の夢なら」 2012 年「ヤンキー化する日本」 2014 年斎藤環 - 58 歳)

#### 「ヤンキー」の一部は「半グレ」？

私は「人生において後悔だけはしたくない」という考えで生きてきたが、本当は後悔ばかりの人生だった。子どものころから、身の回りにいるのは不良と半グレばかり・・・その深い沼から抜け出すにはどうすれば良かったのだろう。

(「半グレと金塊 - 博多 7 億円金塊強奪事件『主犯』の告白」 2019 年野口和樹 - 44 歳)

### 参考 2: 「透明化された人々」への「無関心」が日本を壊す？

#### 「透明化された人々」 = 「大きな黒い犬」

社会に「透明化された人々 (Invisible minority ~ majority ≡ Silent majority)」がいる。「かわいそうランキング」で上位の人々(例: 電通東大新卒女性社員自殺)に比べて下位の人々(例: 運輸・建設等の過労死)は、保健所で白い小さな子犬に比べ引き取られにくい大きく黒い犬のように (Big, Black Dog Syndrome)、長らく無視され透明化されてきた。

トランプは、「大きく黒い犬」である白人労働者をまとめて引き取った。

それは、一大政治勢力になった。階級闘争的構造を超えて、「(黒人・難民・性的マイノリティなど) かわいそうな弱者 VS かわいそうでない弱者(非エリート白人労働者)」へと変移している。今後、日本も同様に推移するおそれ。

#### 非正規化でより強まった「透明化された人々」の承認欲求？

「かわいそうランキング下位」の「透明化された人々」の社会的承認欲求がある。「経済・雇用だけでなく、ネット掲示板で“自分になりすまされたこと”」が 2008 年秋葉原事件犯人の動機。

#### 「頑張れば報われる社会」観念の極端な例が「在特会」？

「まじめに努力すれば報われる」などの「公正な社会」という観念は、一方で、失敗した人々に「努力不足？ 何か悪いことしたのでは？」と自己責任論を強化する傾向がある。生活保護バッシング。2006 年設立の在特会の主張は「移民に比べ、“まじめに努力しているのに困窮している自国民”が苦しんでいる」

#### やまゆり事件犯人を支持する人々

2016 年知的障害者殺人のやまゆり園事件犯人の思想を支持する人々が存在。彼らは「お前に価値がない」と社会から排除された人々で「俺たちには自己責任。障害者は人権問題。おかしい」。おまけに、人権問題という人々が「近くに障害者施設建設

するのは反対」。人は関係ないときだけ寛容。

#### 橋下徹がトランプになれない理由

「何かやらかしてくれそう」とヤンキー好き人気」(参考1)のある橋下徹がトランプになれないのは、自分の出自でもある「弱者」に自己責任をふりかざしたから。橋下は「努力して這い上がった」が、日本がアメリカに比べ「階層移動が容易だった」から。アメリカでトランプは「上流」にはなれなかった。しかし、欧米ポピュリズム「やさしい排外主義(自国民にやさしく外国人に厳しい)」は、日本でも「階層の固定化」が進むにつれて台頭しかねない。

#### 巨大な「無党派層」は何か

自民党など大政党にも共鳴せず、かといって新興の右派政党からは「自己責任」として切り捨てられてきた層は、この国に巨大な「無党派層」を形成している。

#### 『自由』が縛る世界」の「透明化された人々」と「半グレ義賊」

「無縁社会」も、「疎外」も、孤独な介護離職も、ひきこもりへの暴力的な対応をめぐる「賞賛」も、障害者殺人への「共感」も、「自分が好まない他人との接触を自由に拒否できる社会(=選ばない自由)」になったことで必然的に生じた。「差別はいけない」と人は関係ないときだけ寛容。その欺瞞が「義賊」を生む？

#### 「選ぶ自由」が招く過酷な労働負荷と男の自殺

日本の自殺者は男が多い。引き続き「男は甲斐性・大黒柱の競争」。女性より結婚を避ける男性が増加。家事負担よりも、先進国で突出して一番過酷・強すぎる労働負荷。

日本の過酷な労働は、そもそも我々が「便利さ(=選ぶ自由)」を尊ぶから。一方「やりがい、苦痛こそ報酬」という「(自由で公正な社会の)道徳的規範」。東京五輪ボランティアは日本の労働観の写し鏡。本来「やりがい」は内発的なはず。だから「安い報酬なら手を抜く、安い対価なら上等なものを期待しない」へ。それが日本の「呪い」を解く第一歩。

#### ホームレスの尊厳を踏みつけにした「自由な社会」の謳歌

「生活保護などは本当に困っている人が使うべき。俺は自分がだめだからこうなった。これ以上、人様に迷惑かけられない」というホームレスのおじさんと、「ホームレスを排除してほしい」という区役所への投稿。私たちは彼らの尊厳を踏みつけにし、タダ乗りすることで「自由な社会」を謳歌している。(参考3「矛盾社会」)

(「矛盾社会序説 - その「自由」が世界を縛る」2018年御田寺圭 - 30代)

参考3:「無関心」の源流?戦争に突き進んだ「日本人のアイデンティティ」

- 「ヤンキー」、「いきおい」、「ヤケ」、「自信喪失」、「自分嫌い」

「ヤンキー文化」の源流は、古来からの「いきおい」?

丸山眞男が、戦争に突き進んだ日本人の「歴史意識の古層」として、古事記の神々がキノコがつぎつぎに生えるように「主体なき生成」として生まれてくることに見出した「つぎつぎになりゆく(≠なす、つくる)いきほひ」(「歴史意識の古層(1972年)」)が、「ヤンキー文化」の源流である。

(「世界が土曜の夜の夢なら」「ヤンキー化する日本」 斎藤環)

**しかし、「ヤケ」がなければ「いきおい」だけでは破局に突き進まない**

日本が戦争(8.15)に突き進み、それを真に反省せずに3.11を招いた「ニッポン・イデオロギー」は、丸山眞男が言う「なりゆくいきおい」が「屈折し頹落した」アニミズム。

本来、狩猟時代に世界どこにもあった健康的なアニミズムである「なりゆくいきおい」が、農耕とともに「なりゆき」から「なす、つくる」意識へ変わっていった。それに対して、日本では、「熱帯西日本の天皇制国家支配により寒帯東日本にも無理な稲作依存」し、支配された民衆は、「平和と繁栄」のために、侵略者が捏造した神話を自分達古来のものと思い込み、「古代における大衆の総敗北」となった。

こうして日本のアニミズムは、「なりゆき」をひきずったまま、「熱帯的あきらめ」と「寒帯的辛抱づよさ」が複合し、どうにもならないと「ヤケ(自暴自棄)」で暴発するということに屈折し頹落した。

自然環境に適合した作物を選好した中国華北・朝鮮北部麦作民、中国華南・朝鮮南部稲作民と異なる。

19世紀後半、黒船ショックがあっても、江戸期から相応に資本主義の基盤ができていたこともあり、欧米の植民地とならずに、この「頹落したアニミズム=ニッポン・イデオロギー」を保存し、「いきおい」だけではできない「ヤケ(自暴自棄)」の戦争に突き進んだ。

### 3.11 今こそ「ニッポン・イデオロギー」の外へ

「表層が変われば変わるほど本質は変わらない」柔軟で強靱な「ニッポン・イデオロギー」だからこそ、惨憺たる破局を必然的に招き寄せてしまう。

しかし、エネルギー革命でもある資本主義の矛盾の到達点の象徴である3.11は、強靱な「ニッポン・イデオロギー」がくぐりぬけてきた伝統的な対処法を超えている。今度こそ、この「イデオロギー」の“時間の観念のない自己循環”の外へ出なければならぬ。

(「8.15と3.11—戦後史の死角」2012年笠井潔 - 71歳)

**古来、日本人には「なりゆくいきおい」が生んだ「和の力—異質なものを共存させる力」があった。**

和の力は、この国が緑の野原と青い海原のほか何もない「からっぽ」の島国(いろいろな神が共存する八百万の神の神社もからっぽ)で、夏が異様に蒸し暑く涼しさを求めた(暑苦しくこだわらずなりゆきに任せる。「いき(粋)」は涼しげであること)

ことから生まれた。それは、日本文化に特有の「間」を生んだ。

**しかし、この「躍動的な和の力」を明治維新で忘れ自信喪失した。**

明治維新で、近代化(西洋化)を開始し、「和の力」を忘れ、「和風」「和食」というように和を固定化した。この偏狭な和は、日本人を自信のない人々にし、和が偶像、神話となり狂信的なナショナリズムを生む土壌となった。

過剰なナショリズムは人々の自信からではなく、不安と恐怖から生まれる。敗戦でナショナリズムは下火となったが自信喪失だけ残った。いかに繁栄しているかにみえようと日本人の心は今もそのままだ。

(「和の思想 - 異質のものを共存させる力」2009年長谷川権 - 65歳)

**なぜ、日本はヨーロッパ(近代化・西洋化)に中国のような抵抗を示さなかったのか？**

明治維新を成功させた日本文化の優秀さが問題だ。日本には型がない。個性がない。文化はいつも西からくる。だから待っている。抵抗がない。つまり自己を保持したいという欲求がない。日本は何ものでもない。だから日本イデオロギーに敗北はない。

(「中国の近代と日本の近代」1948年竹内好 - 当時38歳)

**「近代の日本人は自らを憎んでいた」**

**—自分が嫌いなら人への思いやりもなくなる？**

なぜ日本人はあの戦争(特に太平洋戦争)に歴史のすべてを賭けてしまったのか(古代以来の歴史と古典と伝統のすべてを注ぎ込んですべてを失った戦いだった)。

それはあらゆる戦争にとってありきたりの敵愾心などのせいではなく、近代の日本人が実は自らを憎んでいたからである。米英が敵だとすれば、実は「米英」は自らの中にもあった。近代日本、あるいは大日本帝国はそれらにならって作られていたからである。

昭和に入ると、財閥、政治家、官僚のなかに「英米派」ができ、敗戦後、彼らはファシズム化に抗した賢者、英雄のごとく描かれるが、一方、労働者の失業、農民の飢餓状況をよそ目に、濡れ手で粟の巨利を収め、金権によって政治を操っていた。だから、大衆的に広がった反米英とは、そのかなりの部分が実は反「親英米」なのだった。

当時、盛んに動員された神話「古事記」で、スサノオは亡き母を慕って「ははの国に往かん」と慟哭する。人は現実の天皇や大日本帝国のためには死ねない。この「ははの国」を守ること以外、必死の戦場になお戦い続ける根拠はなかった。この戦争とは何なのか、なぜ死ぬのかを最も切実に問い続けながら生を中断した私と同輩の彼らも、この「根拠」に納得してくれるのではないか。

**日本人が戦争と敗戦で失った「自己決定権」**

そして、日本人は、「革命より戦争がまし」という天皇の命令により戦い、「革命より敗戦がまし」という天皇の命令により戦いを終えた。ここで排除されたのは、命がけで、個人が自己の判断に基づいて自主的に戦い、自主的に戦いを止める可能性だっ

た。

時代の曲がり角で歴史は、否応なく人々に“見るべき”ものを提示する。かつての「戦争」は、今なお「見るべき」ものとして我々の前にある。

(「日本人の『戦争』 - 古典と死生の間で」 1995年河原宏 - 敗戦時 16歳)

#### **なぜ朝鮮人を日本人にしなければならなかったか？**

1853年ペリーが来航したペリー・ショックによって、日本国民は、外的自己と内的自己への分裂という精神分裂症的になった。和魂洋才。

不安定な内的自己を支える砦として持ってこられたのが天皇。一方、欧米諸国に屈従する外的自己はできるだけその存在を否認しなければならない。そこで持ってこられた不運な国が朝鮮。

欧米諸国の植民地政策が徹底的な差別だったのに対して、日本は同化政策をとり、朝鮮人を日本人にしようとした。つまり、朝鮮人は日本人にとって劣等な自己だった。

欧米との関係でアイデンティティ（自己同一性）を危うくされた日本人は、朝鮮人のアイデンティティを奪うことによって、おのれのアイデンティティを建て直そうとした。

おのれのアイデンティティを失った者は、他人にとってのアイデンティティの重要性に無感覚になる。

(「日本近代を精神分析する」 1975年岸田秀 - 当時 42歳)

#### **参考 4：欧米で強まる「自分たちで決めたい」という大衆の声**

資本主義、とりわけ先進国は 1970 年代にすでに資本蓄積の危機に直面していた。利潤率低下の危機に苦しみ、労働者との妥協関係に終止符を打った。財政緊縮を訴えながら民営化・社会保障制度の解体・労働組合の弱体化を目指す新自由主義は、「危機を先延ばし」にするために資本の側がとった方策。

大衆に社会生活における自律性や自律的な組織を求める声が非常に強くなっていて抵抗を受けるので、戦後、過激化する労働運動を懐柔するための手段だった「福祉国家」には戻れない。

今、アメリカでは、引き続き先住民、黒人自ら「所有」を乗り越え「コモン」を求める運動が続く。スタンディング・ロック（スー族・水の保護者）。ブラック・ライブズ・マター（黒人による土地と解放のイニシアティブ）。

#### **欧米の新たな社会運動が生んだサンダース、コービン**

サンダースもコービンも最もカリスマ性のないリーダー。あらためて欧米で社会生活の自律性や自律的組織を求める声が非常に強くなり、ウォール街オキュパイ運動、ブラック・ライブズ・マター、スタンディング・ロック、オキュパイ・スチュー

デント・ローン（学生ローンボイコット運動）、エコロジー、ジェンダー、人種、エスニシティなどの新しい社会運動が、彼らの生みの親。

（「未来への大分岐」2019年マイケル・ハート - 60歳、斎藤幸平 - 32歳）

#### **この新しい社会運動から生まれる社会**

「近隣社会主義」（「民衆のアメリカ史『下』」1980年ハワード・ジン - 当時58歳）、  
「ケア社会主義」（「NOでは足りない - トランプ・ショックに対処する方法」2017年  
ナオミ・クライン - 49歳）

#### **日本の社会運動の成功例「年越し派遣村」の本当の主役**

「貧困問題を可視化」させた年越し派遣村が、近年、政治と結びついた社会運動の  
唯一の成功例（政権交代）だったが、リベラル派は「次なる湯浅」探しをするだけで、  
年越し派遣村の本当の主役は解雇され公園を占拠した労働者たちだったことを見落  
としている。そして、リベラル派の主戦場はいつも選挙と政策提言で、「投票に行こ  
う」がお題目。

（「未来への大分岐」2019年マイケル・ハート - 60歳、斎藤幸平 - 32歳）

### **参考5：死者にとっての戦争と敗戦後の日本人の「無関心」**

#### **「戦艦大和の最後」の青年士官たちの激しい死生論争**

兵学校出身者「国、郷土、君のために死ぬ。それでいいじゃないか」、学徒兵出身  
者「俺の死、日本の敗北を普遍的な価値に結び付けたい」。切迫した死の重圧で「ニ  
ッポン・イデオロギー」が、その本来の二つの成分に一瞬だけ分離された。

（「8.15と3.11－戦後史の死角」2012年笠井潔 - 71歳）

#### **敗戦後も安泰な「ニッポン・イデオロギー」**

明治維新でも保存され、戦争に突き進んだ「ニッポン・イデオロギー」は、敗戦後  
は、一転、（冷戦構造のおかげで）アメリカに従属して、「平和と繁栄（≡自由と民主  
主義?）」を享受してきた。それは「古代における大衆の総敗北のグロテスクなほど  
に克明な再現ではないか」。こうした日本人を300万人という戦争の死者の「霊」は  
許さないだろう。

（「8.15と3.11－戦後史の死角」2012年笠井潔 - 71歳）

#### **「歴史」を失った日本人**

敗戦後日本人は、「歴史」を失った人間として、それに代わる外来の「抽象（≡自  
由、民主主義）」を信奉しているかのように振舞っている。

（「日本人の『戦争』 - 古典と死生の間で」1995年河原宏 - 敗戦時16歳）